



1977
11

上海
上海
上海



上海

玉海集追加題目錄

冬之部

初冬

時雨

落葉

霜

寒草

冬月

冰

冰柱

穀

霰

雷

鷹

冰鳥

綱代

埋火

冬梅

衾

茶花

神樂

節分

雞冬

歲暮

用家神武新德田

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

玉海集追加巻第四

初冬

夏枯れしつゝいふし少きれ 徳定

人あふらんまうつおそくも 正友

結繩れまのしあし 性琢

多きまよ物く 高野山 沢元

清妙な 河内山厨清水氏 春宵

時雨

傘と十人ひらりり 越前權多田氏 祐元

うたがひ 舟波福智山内氏 重廣

あま 作列津山住 自發

物 紀州村松氏 恋草

善くしり屏風り海のさくれれ 賀島氏 尚的

多しり大書のさくれれ 河地氏 正量

ぬいぬい 里湖

〜 大津福留氏 光继

松岡の里 井狩 友静

勢多向の書 大井氏 重次

谷川の善 紀野野村氏 長本

藤原 曾山氏 曾立

〜 肥後熊本没名氏 一直

剛のい 法定

心 月

〜 不必

兼 月

出 月

冬 月

青馬 月

月

長之

貞室

真室

侍一尚書

月

日野外山方丈石一の阿

月

阿

月

落葉

西宮 阿次

長之

重道

江州草津住

風の神よ由信するや木糸うた 山崎 梵若

木糸衣めようの木生の焼火うれ 羽州山形町田 木多

まろひた木糸いよめれゆめ 尾州 之也

まのつゝ木糸衣や西羽織 越前初川西長 吉秀

ゆらちの指香いよめれ 佐元

木糸うたの木籠うた 月

木糸いよめれ 徳定

木糸衣の由信 月

木の籠うた 南都住西村氏 忠重

木の籠うた 奥羽山形井長 馬口

木

木の籠うた 伊藤氏 信澄

木の籠うた 水戸山縣 石鏡

木の籠うた 春宵

冬の季の中よんたるや雪櫃 尚的

おろし〜〜〜の任也 但馬生野長野氏 業秀

おろし〜〜〜の任也 越前福井池田氏 一孝

酒造りめんさめ〜〜〜吉秀 越前折西野氏

これ又温氣おつ〜〜〜藤本氏 惠佐

朔日〜〜〜や船杭とるす〜〜〜勢別業名荒委 芳成

貞徳義十〜〜〜

雪々つ焼多〜〜〜進修子 長之

心痛〜〜〜

おろし〜〜〜の梅る〜〜〜春宵 京山田氏

多分〜〜〜の雪 重基

島よおろしのなは〜〜〜

ひ〜〜〜の雪 肥後隈本住 一直

おろし〜〜〜の紙

園〜〜〜

多〜〜〜紙園の種や〜〜〜 徳定

日野外山鴨長明乃用居

なまらひて

あまのこゝろにふりかへりて枕

貞室

冬草

寒菊の香をうけてもよみかき酒

播州の野石川氏
忠宣

寒菊の香をうけてもよみかき酒

京大宮
源杰

冬月

あまのこゝろにふりかへりて枕

丹波福知山後山
英英

あまのこゝろにふりかへりて枕

不必

あまのこゝろにふりかへりて枕

原只氏
吉氏

あまのこゝろにふりかへりて枕

筑前博田服
信貞

あまの身よはし腰の心きこしれ 根洲西宮辰 正

藤の葉もくさくさ 根洲西宮高住氏 重正

あまの身よはし腰の心きこしれ 根洲和方山村松氏 重正

あまの身よはし腰の心きこしれ 田洲松田氏 不

あまの身よはし腰の心きこしれ 勢洲来名松氏 利宣

あまの身よはし腰の心きこしれ 尾洲川名氏 友久

あまの身よはし腰の心きこしれ 根洲西宮西安寺 重正

あまの身よはし腰の心きこしれ

あまの身よはし腰の心きこしれ

あまの身よはし腰の心きこしれ 越前権持多良 祐久

あまの身よはし腰の心きこしれ

あまの身よはし腰の心きこしれ 貞室

あまの身よはし腰の心きこしれ

あまの身よはし腰の心きこしれ

あまの身よはし腰の心きこしれ 貞室

あまの身よはし腰の心きこしれ

糖魚

お目... 回

氷

搦り... 棋州西宮 利次

く... 大津豊田氏 宣秀

越海... 宣秀

... 宣秀

... 敦賀野瀬氏 宣利

... 棋州西宮 正則

桶と... 棋州西宮 宣秀

水桶... 肥後隈本流 一直

茶の水... 棋州西宮 重友

水... 勢州 山井

冬... 勢州服ア氏 貞吉

うに葉ふ志と根波さし水くれ 不登森

水鳥れのしめりうすう水う那 榎洲西宮 久近

西多流れ水やこもりてうさ水 敦賀野次 宗与

池の水すうやうさうと風の袂 野々口氏 可軒

方流ううくれ池のあけ氷 澹定

うろとりと冬衣はさるや氷面流 勢列留田南ア 龜次

雲をまわれいさりの劔 大津若林氏 吉信

いしゆよじりあやう程あさ水 直昌

忠告いさゆのあさ水 島本

終極はささ水 島本

とに鈕いたくさ水 貞室

勧めたささ水 月

水程

石針と雲ささ水程 豊前中津偉山氏 梅室

中津の汐波せられぬ水櫃の
織鬼の目火櫃せりつらうれ
高野山法院 彦彦 深秀

教

ふのまんとまらぬあつた酒
ひらつた清らんとてうまぬ家
まらぬまらぬまらぬまらぬ
肥後荒瀬氏 宣統
紀州野村氏 春香
長本

實

ふられらるるやん一のうり花
ふられらるるやん一のうり花
白粥く壹盆ふらうらふられゆき
清き蓬池すうらうらふられゆき
同じふられ吹出るや杉の松山
長本
小川氏 彦真
親宣
彦彦
深定

雪

のりこふまにねむりうらむ雪 長之
このりこふまにねむりうらむ雪 山井
雪はたけの雪は又たけの雪 野々口氏 正秀
ふらふらふらふらふらふら雪はたけの雪 相模小由原伊藤氏 清節

貞法居士七回忌冬懐

冬十一

あつたせむのいふの竹の雪 藤本氏 素仙
数ふも一暮るふらふら雪 徳定
木や竹の雪をせんとも雪は 円經寺 玉珠
松多しとくねとくひく

冬の物見りまよふらふら雪 利宣
周の雪はうらむらむら雪 濃州平井氏 好次
らふらふらふら雪はまに雪は 利宣
山乃いふらふらふら雪は 尾刈高津氏 周徳

き京の法

吾れ縁やなうううううう東山 月

増減して

吾れ山や甲もてうううううう花 知等庵主 悔言

吾れ六波の言や伊勢橋 井狩氏 友静

うううううううううう

橋れ多波うううううう言れ花 敦賀野瀬氏 宣利

越中の橋井やううう言れ花 亦真

吾れみう一白やまに二富士う 賀州大橋氏 全可

つじ吾れ地獄ううううう根山 京住南氏 吉勝

吾れ國ううう大言も閑路うれ 長本

ひつのはらつし備うううう地話 栴州共庫法蓮寺 本住

吾れ是日のれは吾國の心

うんむううううう

吾れ花やあうう佛ううううう 羽州山形 本亮

一花みまううううう初祖う相れ言 長崎前野沢氏 曲肱

善提樹のまじ磨くつらつら雪の雪 山城木津安永寺 忠絶

大雪に降漢樹も佛ころひれ 徳定

芭蕉くゆるらん雪れ蕙鉄れ 親宣

芭蕉あよつらつらわら雪女 徳定

まゆや老てのほら雪なまら 大井氏 重徳

越中のみこころり定重忠

雪のまじ磨くつらつら雪

君は雪のまじ磨くつらつら雪 兼次

まゆくつら威あつ君子木村れ雪 忠絶

しつらに冬みつ季く木れ雪 武列田町住 直昌

先師十三回忌よ

法の花や落ゆまら雪 伊東氏 祐と

貞徳老人十三回忌よ

雪花やつらつら雪 青地氏 可頼

雪くつらまら雪 徳定

風くつら雪 不必

実のくわくは芳の種や雪の花 尾州 野双
物の平の志とありたり 大井氏 重次

醫者の字寮 伊賀信行寺

姫桑のひかりひ 一 忘れ雪

ふじさや雪 不必

とよ人も 志葉

ふ 常後

か 井持氏

雪 長之

ひ 同

つ 蜻蛉

ふ 不必

ふ 貞宣

ふ 濃列岐直井氏

白 秋庭

白 高野浦谷

白 田

白 二共

鶴の鳥のさす子音のまくらる 利室

ありうらむいひんた音のり 勢列松坂常念寺 昌把

おむねくろくけい 賀列金沢橋本氏 芳由

月のなつてく 夜静

あくらら音くらあひ 棋列西宮 正剛

あくららよ 尾列 野双

おひ 熊野長嶋石倉 一入

音と 尾列熱田若原 叩端

志志山極考院の奥得なる

ふゆい

音はららるる 貞室

音 音

き

あ 月

花師十四卷

あ 月

台田よはつし一何徳言し

茶は煮て

めえ火きしひくもや徳言れ松 月

先師十三回のみよのこ

ふとる約奥ひしひりて

雲に徳のあや一けしんく徳 月

鷹

未那

あつゆしん夢あよ徳らん

ふしんまひんたれん

あまよ徳も人徳昌れ吉事しん 紀伊池野氏 澤近

あまのゆあのみし一徳を揚い自由 利宣

かんしんあまのあひんた

ゆ徳しんて徳はしんせ

ゆんたつしんあて

子代の鈴君よわとれ鷹の鶴 忠孝

身よりくさるゝ氣成子鷹の鶴 京三浦氏 春香

合すれいこも少はる鷹よとれ 大津福田氏 光徳

料理のくも箸よいりや鷹の鳥 法州岐阜赤松氏 光通

了々鷹や鷹にちりてふくつり 忠孝

信守鷹成つてささりて鷹つてま 重道

水鳥

水鳥のついでにねまのやういり 忠孝

雌雄くさる鷹やうは鷹のいり 大津福田氏 光徳

さく鳥わ口くやものうへ千鳥 三信

毒の矢を射られさ夷々鴻千鳥 丹波高内花久氏 梅室

藤くさくやとくさる鷹子鳥 丹波高内花久氏 合重

鳥のいりくさくや鷹くさる 勢別渡會郡山田荒谷田隆盛 武珍

鳥の傍中守りつれいり 武珍 忠孝

移るもくもくも中もくもな子鳥 根列今津住 義元

あーあまーあまーあまーあま子鳥 尾列根田友氏 利室

あーあまーあまーあま子鳥 敦賀野沢 一南

あま鴨のあまあまあまあま 尾列名古屋 宗白

あま鴨あまあま中あまあま 尾列 風流

揚るあまあまあま鴨あまあま 尾列 望湖

あまあまあまあまあまあま 尾列 宗白

あまあまあまあまあまあま 尾列 宗白

あまあまあまあまあまあま 尾列 貞室

網代

あまあまあまあまあまあま 尾列粉川大伴氏 定義

あまあまあまあまあまあま 尾列 理重

埋火

埋火の妻のあちれまひつくれ 曾立

皆と退きこゝの家よけり

うつら火の埋もつ身の重ゆれ 希光

たつて寝てもとの火桶や起別き 貞孝

葦物や火桶のまゝの梅代菊 重廣

狭間とらうらふしう炭の火桶 卜琴

まや吹冬あつれとれとれ火燈 公共

冬座と別よまゆやとれ火燈 同

くぬきよまゆとれとれとれ 廣行

冬の喜れまゆとれとれとれ 矢種

風よまゆとれとれとれとれ 不必

灰の上にもれとれ炭やなほとれ 卜琴

まけりていふ炭くぬけ燵中れ 木玉

貞徳居全七回忌七る約真引

埋火紙とくりにて居坐るも善極なり 貞室

冬梅

古巻正位紅巻とみ紙あり

こゝろてりるるく身もいれ

アけつと悔て

紅や美紙もきくはくはれ梅 可頼

美紙詩を焼やく梅善者 勢列松坂 三忠

冬昔ゆてくくくや一本白梅花 典章中津天満宮 沙清

衾

きつる巻もきつる巻と紙衾 三列聖崎 魚心 十

厚紙のふりもきつる巻 丹波我養八 緑一

ひまのりもきつる巻 丹波我養八 赤真

のりつこのよにやふれ移世のり念 肥後友不 金門
きんはあひなうつけてゆふ念 大津若林氏 吉信
あつあつゆふもや佛り あま 油定

茶巻

茶の真実尼云志の遊善よ
茶れ花をいれていさんの手向草 恵佐

冬ハ又茶れ花園り宇治江里 梅室

神樂

林ああううくくもくくもく 村上氏 令教
奇りや大己貴乃林示苗 新屋君氏 一八
あつあつあつあつあつあつ あま 三信
秀れれれれれれれれれれ あま 利宣

酒後とくくふ林ふやふひの程 尾別 之也

酒殿やと寸天林のくくくく 月

くもりれ林きく梅の林ふ 注定 !

おん惠作を卦よ入くう後

とくく教るこつれく

あくせくくくくを梅れ林ふ 貞室

節分

節分いあするけのうとく 大津早崎氏 重安

節分の大豆の湯や鬼瓦 梅曾

女一日節分ちりくれい

女日節り鬼のきくく節分 偏負

せらうんの舟舟のきくく 親室

せらうんにあくく 長本

井持氏と行くとく

くらげにまらすりりや寝舟
 な静
 しくらぶの常分もまはつ天
 春宵
 常分の毎はゆすや筆下の海
 卜琴
 せりんりりや格の花の香
 貞室
 一紙のあまよりけの老の浪
 同
 数々の大いんもまらすりり
 同

難冬

山麓の羽ふいのあやうりり花
 播州赤穂水谷氏 尚昌
 陰気もや湯よらりりりり花
 田中氏 尚房
 うりり花の無修もわらうんりり
 祐元
 せりりもあまもりり 杜根の花
 志多
 冬の季は咲りけや雪しおの花
 但馬八戸派 正次
 雪にかひく枝や白波比巴の花
 惠佐
 瓢箪一のりりりりりりりり
 伊賀上野扶山氏 一入

江州和余とありとてつと

とらぬて

口はちりわつとくもひろく和余と

重道

ういもくうとるもあまの清糸

重真

市守の鯨つとてや長者号

重正

湯のさめて又目れきうとんが

重真

身のかつ真の目とつとるゆり

吉信

ふとつとく又あてつとや水餅

玄成

あの子と星とのせりやをうり

一孝

ちとれとれとれとれとれとれ

不必

ひんわりの紙小の風のうら

重良

借積を海とてほやまわとれ

重利

質草とらうとらうとらうとらう

重次

よりとりの矢代よつとや眉の香

重玄

ふつとつとつとつとつとつと

重一

あつとやいあつとくと父母れとれ

重敬

伊賀上野信行寺

大津若林氏

和列郡山形流氏

紀列石井氏

敦賀

大井氏

播列三木

村上氏

極目十二個子の玉をくれ

大佛小川氏
充寛

此邑とく人びと好む所のゆゑ

たそゆきとく人びと好む所のゆゑ

貞室

貞室居士十二回忌貞室奥ゆき

門あけくれぬお月の作喜くれ

河池氏
正量

漢液は福寺より出度

たくれぬお糸もくさあけよ水車

貞室

わの磨はよりそかにかかぬ

おそくしんまはちあゆむけの磨くれ 同

歳言

暑や空もくらくひくひくくれ 可敷

ぢぬくすれいもあれもくれ 正量

儼りのやよもくらく 歳言くれ 不必

おそくや胸骨くくもくれ 同

あひたむらさきのこよのいづれの月

しのとれ浪ららるるさうらぎの月

も浪ららるるうらたよの月

年波のこつてそつとく冬月の 正之

晴日やゆくづ一はたきやうり 若英

わらりあふとせむ石川のせつふれ 重次

年々くも浮世のあわれもくらす 可頼

あふみ 木崎のよ終日風をけしむ 回

あふみ 木崎のよ終日風をけしむ 回

しむのよの月くは師走の月

しむのよの月くは師走の月 善入

おとさうて瑞穂のやりのもなれ 慈危

とらふとて世のこころの師走の 宣好

子のゆき

しのとれ緒の物なれくらすれ 重道

あふみ 木崎のよ終日風をけしむ 回 定吉

あふみ 木崎のよ終日風をけしむ 回

あふみ 木崎のよ終日風をけしむ 回

あふみ 木崎のよ終日風をけしむ 回

あふみ 木崎のよ終日風をけしむ 回

抄のひらきしるまはらりぬ 由具

借抄のうらむらむらぬ 羽列山形住月巖 周行

子成添て借抄の肩ふせりぬ 長之

あさ神をうらみ神乞の仕舞ぬ 祐之

あへくうらむらぬ 由具

あとのうらむらぬ 安田氏 吉度

同極月 撰列西官

あさ神をうらみ神乞の仕舞ぬ 光友

あさ神をうらみ神乞の仕舞ぬ 祐之

あさ神をうらみ神乞の仕舞ぬ 由具

年のうらむらぬ

あさ神をうらみ神乞の仕舞ぬ 長之

あさ神をうらみ神乞の仕舞ぬ 重基

年のうらむらぬ

あさ神をうらみ神乞の仕舞ぬ 曾立

あさ神をうらみ神乞の仕舞ぬ 東寺住松本氏 定之

戌の年の大綱

犬のけいおろりたりとくはれ 越前西野氏 吉秀

ふくたに穂のくはらり 長之

やうわつ二すけ 同

足手ふい 草津羽津氏 吉治

老のあ 貞室

又十よたりりり 紫雲

粟の 同

